



5年後の市民生活はこうなります

分野	分類	指標名	指標の定義	指標の説明	現状→目標
総論	市民満足度	今後も静岡市に住み続けたいと考える市民の割合	(今後も静岡市に住み続けたいとの回答者数) ÷ (総有効回答者数)	この総合計画を着実に推進し、市民意識調査において「今後も静岡市に住み続けたい」という回答者の割合を増やします。	72.3% → 85% (平成16年 市民意識調査)
	市民協働	常勤・有給スタッフ1人以上のNPO団体数	団体数	安定した組織をもったNPO団体を増やし、市民との協働の基礎づくりをすすめます。	41団体 → 100団体 (平成15年)
	都市の拠点性	昼夜間人口比	(昼間人口) ÷ (夜間人口)	都市整備による拠点性を高めることなどにより、昼間の人口を夜間の人口で割った昼夜間人口比を増加します。	104.6 → 105.0 (平成12年 国勢調査)
		1年間のJR静岡駅利用人数	新幹線、在来線によりJR静岡駅を利用した人員	交通手段のひとつとして鉄道を利用した人数が増加することにより、交流人口の増加を把握します。	4,380万人 → 5,000万人 (平成15年 JR東海調べ)
健康・福祉	子育て支援	ファミリーサポートセンター事業の会員数	会員数	会員を増やし、市民全体で子育てを支えていく環境を整えていきます。	1,950人 → 3,300人 (平成15年)
	健康づくり	基本健康診査受診率	(基本健康診査受診者数) ÷ [(35歳以上の国民健康保険加入者+社会保険被扶養者)-(医療機関の入・通院者)]	市民一人ひとりが自分の健康に関心をもち、生涯健康に暮らすことができる人を増やしていきます。	31.5% → 35% (平成15年)
	福祉のまち	福祉ボランティア登録者数	ボランティア登録者数	福祉に対する理解を深め、福祉活動に携わるボランティアを育成していきます。	7,311人 → 10,000人 (平成15年)
文化・学習	交流事業推進	大道芸ワールドカップ in 静岡の県外来場者数の割合	県外からの来場者数の割合	さらに魅力あるイベントにすることなどにより、県外からの来場者数の割合を増やします。	17.9% → 20% (平成14年)
	地域と学校の交流	個人で参加できる学校応援団の設置数	設置校数	学校応援団をつくり、地域と学校の交流と共生をはかります。	0校 → 13校 (平成15年)
	スポーツ振興	週1回以上市民がスポーツを行う割合	(市民アンケートで週1回以上スポーツすると回答した数) ÷ (総有効回答数)	自分に適したスポーツを継続的に行うことにより、健康でたくましい市民の数を増やしていきます。	59.8% → 65% (平成16年)

(まちづくり成果指標 アップ^{トウエンティ}20)

分野	分類	指標名	指標の定義	指標の説明	現状→目標
生活環境	下水処理	汚水処理人口普及率	(公共下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽により、し尿・生活雑排水を処理している人口) ÷ (総人口)	汚水処理人口普及率を高め、快適な生活環境をつくっていきます。	74% → 81% (平成15年)
	耐震	保育園・幼稚園、小中学校の耐震化率	(耐震化済施設数) ÷ (総施設数)	次代を担う子どもたちの安全と避難地確保のため、保育園・幼稚園の園舎、小中学校の校舎・体育館の耐震化をすすめます。(文部科学省基準のクリア)	79.9% → 100% (平成16年度末現在)
	ごみ処理	市全体のごみ総量	家庭ごみ年間総量 + 事業系ごみ年間総量	家庭ごみの減量と事業系ごみの減量を推進することにより、環境にやさしいまちをつくっていきます。	ごみ総量(5年後の推計値)の5%減
	公園・みどり	市民1人当たりの都市公園面積	(都市公園面積) ÷ (都市計画区域内人口)	1人当たりの都市公園面積を指定都市平均(6.0m ² 平成15年度末)に引き上げみどりの豊かなゆとりとうるおいのまちをつくります。	5.24m ² → 6.0m ² (平成15年)
産業・経済	産業支援	産学交流センターからの新規開業者数、新事業分野へ進出する企業数	開業者数、企業数	産学交流センターを核に、独立開業する企(起)業家や成長型産業分野に進出する企業を産み出し、活力のあるまちをつくります。	0人0社 → 100人10社 (平成15年)
	街のにぎわい	中心商店街歩行者数	実測による通行者数	中心商店街を活性化し、指定都市としての風格とにぎわいのあるまちをつくっていきます。	491,749人/7h → 517,000人/7h (平成16年)
		観光交流客数	観光レクリエーション客数	積極的な情報発信やコンベンションの開催などを通じて、交流人口を増加させます。	2,126万人 → 2,500万人 (平成15年)
都市基盤	やさしいまち	超低床ノンステップバス導入率	(超低床ノンステップバス台数) ÷ (全バス台数)	市民の身近な交通機関であるバスの低床化を促進し、高齢者などにもやさしいまちをつくります。	28.9% → 40.3% 導入台数(101台 → 141台) (平成16年)
	基盤整備	都市計画道路の整備率	(改良済延長) ÷ (都市計画決定延長)	都市活動、市民活動を支える基盤となる都市計画道路を指定都市平均(74% 平成13年度末)に向けて整備していきます。	68.1% → 69.8% (平成16年)
	モビリティ	市街地およびその縁辺から中心部までの移動時間	基準地点間の実測値	計画的な交通基盤整備と公共交通への転換を促進することにより、市街地およびその縁辺の地域から中心部までの移動時間を短縮し、利便性を向上していきます。	静岡駅 ~ 瀬名川(26→25分) ~ 西大谷(24→22分) ~ 中島(29→24分) ~ 広野六丁目(33→25分) (平成15年) 清水駅 ~ 清水・谷津(24→23分) ~ 三保(24→23分) (平成15年)